

令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第5号

令和6(2024)年8月23日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

害虫と高温性病害の増加に引き続き注意しましょう。

予想期間8月下旬～9月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稻 斑点米カメムシ類

- 発生予想 ・ 発生量：平年並
- 根拠 ・ 8月上旬の水田におけるすくい取り調査での発生量は平年並（成幼虫数 ほ場率：平年比139%、頭数：平年比157%）(±)。
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は多い(-)。
- 対策 ・ 斑点米カメムシ類が見られる場合は、7～10日間隔で1～2回追加防除する。
- 備考 ・ [令和6\(2024\)年度植物防疫ニュースNo.11](#)を当センターHPに掲載中。

2 大豆 ベト病

- 発生予想 ・ 発生量：多い
- 根拠 ・ 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比131%、株率：平年比189%）(+)。
・ 向こう1か月の気温は高く(-)、降水量は多い(+)
- 対策 ・ 開花10日前から子実肥大期にザンプロDMフロアブル(F:45、40)、ベトファイター顆粒水和剤(F:27、40)等を散布する。

3 大豆 吸実性カメムシ類

- 発生予想 ・ 発生量：多い
- 根拠 ・ 現在の発生量はやや多い（成虫数 ほ場率：平年比173%、頭数：平年比550%）(+)。
・ 8月第3半旬までのフェロモントラップへのホソヘリカメムシ成虫の誘殺数はやや多い(+)
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は多い(-)
- 対策 ・ 開花期の15日後から子実肥大後期(9月下旬)までにトレボン乳剤(I:3A)、スミチオン乳剤(I:1B)等を10～14日間隔で散布する。

4 いちご 炭疽病

- 発生予想 ・ 発生量：多い
- 根拠 ・ 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比84%、株率：平年比300%）(+)。
・ 向こう1か月の気温は高い(+)
- 対策 ・ 雨よけ栽培を基本とし、点滴チューブを用いるなど、できるだけ水の跳ね返りのない方法でかん水を行うのが望ましい。
・ 本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を徹底する。予防を主体に、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・ 発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分する。
・ 発病株周辺の株は、発病が認められなくても潜在感染している可能性があるため、早急に取り除きほ場外で適切に処分する。
- 備考 ・ [イチゴ炭疽病菌の薬剤感受性検定結果](#)、[令和6\(2024\)年度植物防疫ニュースNo.9](#)を当センターHPに掲載中。

5 いちご ハダニ類

- 発生予想 ・ 発生量：やや多い
- 根拠 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比98%、株率：平年比94%）(±)
・ 向こう1か月の気温は高い(+)
- 対策 ・ 育苗期後半～定植当日にモベントフロアブル(I:23)をかん注する。なお、天敵を導入するほ場では、天敵への影響日数(45日)に注意して天敵を放飼する。
・ 定植前に高濃度炭酸ガス処理を適切に行い、本ぼへの持ち込みを抑えるのが望ましい。
- 備考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 なし ハダニ類

- 発生予想 ・ 発生量：多い
- 根拠 ・ 現在の発生量は多い（ほ場率：平年比239%）(+)。
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は多い(-)。

- (3) 対策
 - ・ 果樹カメムシ類の多発に伴い、頻繁な殺虫剤散布が実施されている (+)。
 - ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備考
 - ・ [令和6 \(2024\) 年度植物防疫ニュースNo.12](#) を当センターHP に掲載中。
 - ・ [ナミハダニ雌成虫及び卵に対する主要薬剤の殺虫効果](#) を当センターHP に掲載中。

7 りんご 褐斑病

- (1) 発生予想
 - ・ 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・ 現在の発生量が多い (ほ場率：平年比 211%、葉率：平年比 256%) (+)。
 - ・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は多い (+)。
- (3) 対策
 - ・ 定期的に予防散布を行い、発生が確認されたらベルクトフロアブル(F:M07)等を散布する。
- (4) 備考
 - ・ [令和6 \(2024\) 年度植物防疫ニュースNo.8](#) を当センターHP に掲載中。

8 大豆・野菜類・花き類 オオタバコガ

- (1) 発生予想
 - ・ 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・ 8月第3半旬までのフェロモントラップへの成虫誘殺数は多い (+)。
 - ・ 現在の発生量はトマトで平年並 (ほ場率：平年比 91%) (±)、なすで多い (ほ場率：平年比 371%) (+)。
 - ・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は多い (-)。
- (3) 対策
 - ・ 新しい食害痕や虫フンを目印に早期発見に努める。
 - ・ 施設は開口部に5mm目合以下の防虫ネットを展張し、侵入を防止する。
 - ・ 幼虫は果実や花らい、結球部に食入するため、こまめにほ場を見回り、食害痕や虫フンを発見したら、アニキ乳剤(I:6) (いちご、トマト、なす、きく等) やプレバソフフロアブル5 (I:28) (だいず、トマト、なす等) 等で速やかに防除する。
 - ・ 摘除した果実や腋芽に幼虫が寄生していることがあるので、ほ場内に放置せず、適切に処分する。
 - ・ 発生ほ場では、土中に残る蛹を殺すため、栽培終了後に十分耕耘する。
- (4) 備考
 - ・ [令和6 \(2024\) 年度植物防疫ニュースNo.5](#) を当センターHP に掲載中。

9 果樹類 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想
 - ・ 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・ 8月第3半旬までのフェロモントラップへのチャバネアオカメムシ成虫の誘殺数は多い (+)。
 - ・ 本年のスギ・ヒノキ花粉量は昨年比で少ないため、餌となる球果がカメムシの発生量に対して少なく、果樹園への飛来が増える可能性がある (+)。
 - ・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は多い (-)。
- (3) 対策
 - ・ 夜間の気温及び湿度が高いと予想される日には、日没以降にカメムシ類が多く飛来するおそれがあるため注意する。
 - ・ 4mm目合以下の多目的防災網で園全体を被覆し、被害を防止する。
 - ・ 園内で成虫の飛来を認めたら、カメムシ類に登録のある薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備考
 - ・ 山林に隣接したほ場や、過去に被害が大きかったほ場では特に注意する。
 - ・ ピレスロイド系 (I:3A) 等の非選択性殺虫剤の連用は、各種害虫の天敵相を破壊し、ハダニ類やカイガラムシ類の多発に繋がるので注意する。
 - ・ [令和6 \(2024\) 年度病害虫発生予察注意報第1号](#) を当センターHP に掲載中。

10 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
水稲	いもち病	やや少	やや少	トマト	コナジラミ類	やや多	多
	紋枯病	やや多	多	ねぎ	黒斑病・葉枯病	平年並	やや多
大豆・野菜類	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	りんご	斑点落葉病	多	多
いちご	アブラムシ類	平年並	やや多	きく	ハダニ類	やや多	多

○トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の防除対策

- ・TYLCVはタバココナジラミによって媒介されます。夏秋トマトで黄化葉巻病が発生したほ場では、残さに寄生している媒介虫を施設外に「出さない」対策を徹底しましょう。

○定植前・定植時の防除の徹底

- ・いちご、トマト、きゅうり等の施設栽培では、定植前～定植後にかけて、施設内に病害虫を「入れない・持ち込まない」対策を徹底しましょう。
- ・定植時の苗に対する薬剤処理（粒剤・灌注剤等）によって、施設への害虫の持ち込みを防止しましょう。
- ・施設開口部への防虫ネットの展張によって、コナジラミ類やアザミウマ類等の微小害虫、ハスモンヨトウやオオタバコガ等のチョウ目害虫の侵入を防止しましょう。
- ・イチゴ炭疽病やイチゴ萎黄病、トマト黄化葉巻病（タバココナジラミ媒介）、キュウリ黄化えそ病（ミナミキイロアザミウマ媒介）等の施設内での発生・まん延を防止するため、定植時に感染が疑われる苗は適切に処分し、健全苗の定植に努めましょう。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- ・外来害虫である本種の国内における確認報告が相次いでおり、8月現在、41道府県で発生が確認されています。栃木県における発生は確認されていませんが、飛翔による分散や苗類等を介して本県での発生が懸念されます。発生が疑われる場合はお近くの農業振興事務所もしくは農業総合研究センターへ御連絡ください。
- ・[注意喚起チラシ](#)を当センターHPに掲載中です。

農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。特に使用時期（収穫前日数）に注意して農薬を使用しましょう。
- 化学農薬の抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報（予報期間8月24日から9月23日 8月22日気象庁発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	10	80
降水量	20	30	50
日照時間	40	30	30

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。

～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょ！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょ！
- ・周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮ましょ！
- ・農薬散布のその後に！ 防除器具の洗浄も必ず行いましょ！